

「書くこと」の領域における 素材選定の現状と課題について（その1）

小野善寛

The Actual Conditions and Issues Involved in Selecting Subject Matter
in the Field of “Writing” (Vol. 1)

Yoshihiro ONO

【要 旨】

「書くこと」の領域において、素材のもつ意味は特に大きい。良い素材は、児童自ら喜んで書きすすめるための必要条件である。

今回学習指導要領が改訂され、平成23年4月より新しい教科書が使用される。そこで、新学習指導要領の完全実施を前に、本研究テーマ（その1）では、「書くこと」の領域における素材選定の現状と課題について予想してみた。根拠として、指導要領改訂の趣旨を理解し、何が、どのように変わったのかを明らかにしている。そして、5社の国語科教科書を、5年生に絞って、文種、単元名、学習過程の3点から分析した。さらに、これまでの私の教育実践と結びつけて予想したものである。（その2）では、学校現場での素材選定の現状と課題を明らかにできればと願っている。

I はじめに

新しい学習指導要領に基づいた教科書が作成され、平成23年4月より使用される。「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」ということは、昔から言われていることである。教科書は、指導要領を解釈する時の参考になるし、素材選定、授業展開の参考にもなる。教科書を分析することは、指導要領を解釈するだけでなく、授業展開のあり方まで探ることができる。

これまで、「書くこと」の領域が、疎かにされていた感は阻めない。それは、児童が「書くこと」を嫌っているし、指導者も、何を、どの

ように書かせたら良いのかが分からないからではないだろうか。児童が自ら喜んで書きすすめるためには、児童が「書きたい」という意識まで高まっていなくてはならない。意識を高めるまでの活動、時間の確保に難があったのではないだろうか。

今回改訂の学習指導要領では、「言語活動例」が「指導事項」と同じように示されている。つまり、「何を書かせるか（素材）」が例として示されているのである。特に「書くこと」の領域では、素材が重要な位置を占めていることは過言ではない。

そこで、学習指導要領は、どこが、どう変わったのかを素材を中心に分析し、それが教科

書にどのように反映されているかを明らかにしていく。そして、これまでの授業と、どこが、どのように違っているのか、実施していく上での課題を明らかにしていく。本研究テーマ（その1）では、指導要領改訂のねらいと教科書教材を結びつけ、より具体化していく。実施していく上での課題が明らかになればと願っている。そして、（その2）では、学校現場の実態を把握し、「書くこと」の領域における素材選定の現状と課題を明らかにしていく。

II 指導要領改訂の趣旨

1 中央教育審議会答申より

平成20年1月17日、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善についての答申が出された。学習指導要領改訂の基本的な考え方として、7点述べられている。その中で、「書くこと」とつながる項目として、次の3点を確認しておく。

(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

小学校低学年から中学年までは、**体験的な理解や具体物を活用した思考や理解、反復学習**などの繰り返し学習といった工夫による「読み・書き・計算」の能力の育成を重視し、中学年から高学年にかけて以降は、**体験と理論の往復による概念や方法の獲得や討論・観察・実験による理解**を重視するといった指導上の工夫が有効であると提言がされている。

(4) 思考力・判断力・表現力等の育成

観察・実験、レポートの作成、論述といったそれぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させることを重視する必要がある。発達の段階に応じて充実させるために、（中略）各教科の教育内容として、これらの**記録、要約、説明、論述**といった学習活動に取り組む必要があることを提言している。

(7) 豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

子どもたちに、他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらと共に生きる自分への自信をもたせる必要がある。そのために

も、国語をはじめとする言語の能力が重要である。特に、**国語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤**である。また、**体験活動の重要性**を提言している。

中央教育審議会の答申では、具体的な体験活動、さまざまな文種を通して、全教科において言語能力を培うことを提言していると捉えた。

2 小学校学習指導要領国語科改訂の要点より

改訂の要点として7点述べられている。本研究と関係ある3点について確認しておく。新学習指導要領改訂の目玉と捉えている。

(2) 学習過程の明確化

学習過程の明確化は、小学校学習指導要領第1章 第4の2「(4)各教科等の指導に当たっては、児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。」を受けたものである。自ら学び、課題を解決していく能力を重視し、指導事項については、学習過程を示している。「書くこと」の領域では、「**課題設定や取材」「構成」「記述」「推敲」「交流**」の指導事項を示し、学習活動全体が分かるように内容を構成している。

(3) 言語活動の充実

基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することができる国語の能力を身に付けることができるよう、内容の(2)に言語活動を具体的に例示している。学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図っていくことが重要である。なお、例示のため、これらのすべてを行わなければならないものではなく、**それ以外の言語活動を取り上げることも考えられる**と述べている。

(4) 学習の系統性の重視

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、**螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図ることを基本**としていると述べている。

3 指導計画作成上の配慮事項から

指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとするとして、7点述べられている。本研究と関係ある3点について、確認しておく。

- (1) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導することができるようにすることとある。形式的に該当する学年に当てはめて指導したり、その学年だけで指導が終わったとしたりするような扱いにならないようにしなければならない。学校や学年あるいは学級の児童の言語能力や言語体験の違いなどに応じて、学習のねらいや児童の興味や関心を考えながら計画を立てる必要がある。
- (2) 第2の各学年の内容に示す事項については、相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすることとある。それぞれの内容を相互に密接に関連させながら指導することで、指導の効果を高めようとするものである。そのため、関連して指導する単元及び題材の組み合わせを考慮する必要がある。
- (4) 「書くこと」に関する指導の配当時間を示している。そして、文章の表現過程に応じた学習を展開するとともに、実際に文章を書く活動を多くすることや、文章を書く学習を特に取り上げて指導する工夫も必要であると述べている。

児童の実態によって弾力的に指導できること、各領域を密接に関連付けて指導すること、文章の表現過程に応じた学習を展開することが、指導計画作成上の新しい配慮事項だと捉えた。

4 私の実践してきた「書くこと」の指導

永年国語科指導の研究に取り組んできた。中でも、作文指導の研究に多くの時間を費やした。なぜなら、児童の変容が作文という表現されたものを通して、具体的に見えるからである。また、指導要領の内容も、具体的な子どもの作文を通して、イメージできる。

永年の研究テーマは「子ども自ら書きすすめる作文学習」で、子どもに付けたい新しい表現技能を、子ども自らの力で見出していく授業展開であった。以下、学習過程に沿って述べてみる。

(1) 課材設定や取材

子どもにとって、書く必要感のある課材を設定した。勿論、体験活動を通じたものでなくては書く必要感は生まれてこない。さらに、体験活動の中に、付けたい表現技能が内包されている素材を設定した。例えば、意見文「あいさつ運動に燃えよう」の実践では、子どもが「どのようにしたらきちんとしたあいさつができたか」、意見と事実の結びつきまで体験しておく必要性を感じた。取材については、日記や取材メモを多用した。

(2) 構成

構成を教える必要がある場合は、理解教材（物語文、説明文）と関連させて指導してきた。構成については、表現教材への転移は可能であった。

(3) 記述

取材メモ、構成表等を見ながら自由に記述させていった。相手意識があり、伝えたい主題がはっきりしており、具体的体験を通じた内容であるため、多くの子どもは、既存の表現技能を駆使し、自力で書きあげることができた。

(4) 推敲

児童が、自分の作文の不備を自覚し、新しい表現技能を自らの力で見出していく段階である。

この段階を最も重要視した。まず、教師が教材文を作成する。この教材文の良い悪しを話し合うことで、子どもに欠けている新しい

表現技能を見出していく授業展開である。そのためにも、教師自作の教材文は授業を左右する。私は、3つのパターンの教材文を提示した。

①付けたい表現技能が内包されている教材文
子どもが、自力で教材文の不備を見出せないと予想したとき

②付けたい表現技能が欠落している教材文
子どもが、自力で教材文の不備を見出せると予想したとき

③①の教材文と②の教材文
2つの教材文を比べることで、新しい表現技能を見出せると予想したとき

この時の付けたい表現技能は、取材内容、構成、記述の観点が重ならないように、他の条件が出てこないように配慮した。そして、自力で見出した新しい表現技能を使って、自分の作文を推敲し、書き直していった。

(5) 交流

書く必要感のある課材を設定している。単に読み合うだけでなく、書いた作文は、必ず生活の場で生かすようにした。読んでもらいたい相手に送ったり、掲示したり、文集にしたりした。

Ⅲ 教科書の分析から

各出版社の単元配列は、各学年間で系統化されているものが多い。そこで、5年生の「書くこと」の領域における単元に絞った。また、言語活動例は、文種を示していると捉え、文種、単元名、学習過程の3点から、分析した。5年生は、特に多様な文種が示されている。

1 三省堂

文種別に次の6つの系列に分けている。

体験・生活文…「事がらを集め、整理して書く 人とかかわりの中で」

高学年の最初の単元であるため、書くことの学習過程が提示されている。

- ①書く事がらを集め、整理する
- ②表現の仕方をくふうする
- ③推敲する

④感想を交流する

思考と表現のプラザ…「このあと、どうなる」
物語の続きを書く楽しさをねらいとしている。

紹介・推薦文…「伝えたいことを明確にして書く グループ新聞」

新聞を作っていく過程が示されている。

- 取材する内容を決めよう
- わり付けをくふうしよう
- わり付けにしたがって記事を書く
- 合評会をしよう

記録・報告文…「効果的な組み立てをくふうして書く 見学レポート」

書くことの学習過程が提示されている。

- ①見学の準備をする（情報を集め、課題を決める）
- ②見学をする（新しい発見をメモ、質問）
- ③組み立てを考える（①②と結びつけて）
- ④交流する

創作…「句会を楽しむ」

俳句を作り、句会を楽しむ構成となっている。

書くことで振り返る…「自分の考えが深まるように書く 心を動かされた言葉」

- 自分の思いを書く（出会った場面、どうしてその言葉に心を動かされたのか）
- 交流する

文種と系列が明確になっており、学習過程も示されている。

2 光村図書

書くことの主たる学習は、単元と小単元で構成されている。

感想…「人物のかかわり合いを読み、感想を書こう」

感想の書き方を示している。

- ①どのような物語か
- ②どう思ったか ③考えた理由は

活動報告文…「活動を報告する文章を書く 次への一歩」

活動報告書の構成、記述の仕方を提示して

いる。

- 活動報告の構成 ①活動計画 ②活動報告
③活動して考えたこと
④今後の活動

自分の考えをまとめる…「自分の考えをまとめて、討論しよう 豊かな言葉の使い手になるためには」

自分の考えを文章にまとめて、討論するように提示している。

説明・報告文…「グラフや表を引用して書こう」

グラフや表を探し、そのグラフや表から分かることを記述する方法を示している。

- ①何を表すグラフや表か
②グラフの説明
③注目する言葉や数字
④注目する言葉や数字が何を意味するのか

提案書…「わたしの『図書館改造』提案」

提案書の構成を示している。

- ①問題点 ②提案 ③提案の効果（予想）

創作文…「構成や表現を工夫して書こう 物語を作ろう」

主題・取材、物語文の構成、表現の工夫を示している。

- 物語文の構成 ①始まり ②きっかけ
③事件 ④山場 ⑤結末

相手と目的の明確な話題・題材と場を設定し、また、取材から叙述までの表現過程を例示文と結びつけて図示するなど、工夫している。

3 教育出版

最初に書き方の手順を示している。また、不十分な内容については、事前の内容として、事後の発展として、関連させている。

ポスター…「しょうかいのポスターを作ろう」

ポスターを作っていく学習過程を示している。しかし、不十分であると考え、発展として「広告の特徴」を学習するようにしている。

- ①伝える内容を考える
②全体の構成や配置を考える
③下書きをする ④実物を作る

⑤みんなに見てもらい、感想を述べ合う
新聞…「新聞を作ろう」

前段に、「本文、リード、見出し」「図や写真、解説ののせ方」「新聞の編集の流れ」等、新聞の仕組みについて学習している。そして、新聞を作っていく過程を示している。

- ①編集会議（紙面内容等） ②取材をする
③記事を書く ④自分の考えを書く
⑤読み合い、言葉や文章を直す
⑥見出しをつける ⑦紙面の割り付け
⑧記事や図、写真などを組み込む
⑨紙面全体の校正をする

創作文…「自分を中心にして物語を書こう」

学習過程を示している。

- ①題材と題名 ②あらすじ
③場面、時間、登場人物
④語り手 ⑤書き出しと終わり方
⑥下書きを書く ⑦読み直して、直す

意見文…「世界遺産白神山地からの提言－意見文を書こう」

説明文との融合单元となっている。

- ①「白神山地」について知る
②自分の意見をまとめる
③自分の意見を深め、意見文を書く

詩…「友達とのかかわりを詩に書こう」

内容、場面、言葉の選び方を大事にしている。

コラム…「自分の考えを明確にして書く コラムを書こう」

まず、コラムの書き方を示している。

- ①書く話題を決める ②理由と根拠
③文章全体の筋道や構成
感想や意見の交流のさせ方も示している。
○着眼点や考え方の良いところ
○書き方のくふう ○言葉の使い方
○例などの取り上げ方 ○学んだこと

相手や目的に応じたさまざまな文種を書くことで、思考力（活用力・応用力）を育てることを願っている。

4 東京書籍

「書くこと」の領域における大単元は1つだけで、他は小単元または他の領域との融合単元となっている。

生活文…「メモを使って題材をさがそう」

連想によって言葉を広げ、題材選び、取材のしかたが分かることを願っている。

①「連想メモ」を使って、題材を集めよう

②選んだ題材で文章を書こう

いつ、どこで、だれが、どうした

どんなことを見たり、聞いたりしたか

③感想を伝え合ひましょう

意見文…「立場を明確にして書こう」

説明文「書き手の意図を考えながら新聞を読もう」の発展として、本単元が位置付いている。立場を明確にし、構成を考えて書くことを願っている。

①賛成、反対の立場を決めよう＋そう考えた理由は

②意見文を書こう 構成（自分の考え、理由1、理由2、理由3、自分の意見）

推敲（読み返して推こうしましょう）

③文章を読み合おう

解釈文…「資料を読んで考えたことを書こう」

資料を読んで考えたこと、資料から文の引用を学習することをねらっている。

創作文…「ふしぎな世界へ出かけよう」

理解教材「注文の多い料理店」と融合させて取り扱っている。特に、構成、叙述に力点をおいている。

①ふしぎな世界と人物を考えよう

②物語の構成を考えよう（設定、展開、山場、結末）

③物語を書こう（行動や会話を工夫して）

④物語を読んで、感想を伝え合おう

報告文…「活動したことを伝える文章を書こう 伝えよう、委員会活動」

第5学年唯一の大単元である。学習過程が示されている。

①書くことを整理して、構成を考えよう

②活動報告のリーフレットを作ろう

③活動報告を読んでもらおう

5 学校図書

大単元、小単元、融合単元で構成されている。

論理を立てた文…「筋道（論理）をたしかめる」

「事実」と「意見、考え、主張」のつながりを、論理のつながりのおかしさから分らせようとして編成されたものである。説明文「事例と主張の関係に注目しながら読もう 和紙の心」を発展させたものである。

解釈文…「表やグラフを使って伝えよう」

グラフと表から、分かること・読み取ったこと、考えられることを書き出し、簡単な解釈文を書かせていく。必要な力として、取り出し指導をしている。

報告文…「図や表、グラフを使って分かりやすくまとめよう 分かったことを報告しよう」

前小単元を受けて、編成されている。

①調べるテーマを決める

②調べる方法を決める

③調べて分かったことを整理する

④文章の組み立てを考える

⑤すいこうしてから友達と読み合う

随筆…「自分の経験を生かして書こう わたし風『枕草子』」

①「枕草子を味わおう」で、随筆のイメージをもつ

②「わたし風『枕草子』を作ろう」で、随筆を書いていく

意見文…「意見（主張）と根拠」

説明文教材「事実と意見の関係を整理しながら読もう」と融合させて、「書くこと」へと発展させたもので、簡単な意見文を書かせている。

創作文…「できごとの背景を想像して書こう 話を作り上げよう」

四コマ漫画を並べ替えることで、起承転結の構成を分らせていく。

短歌・俳句…韻律と季語を知らせ、短歌・俳句を作る。

紹介文…「根拠をはっきりさせて書こう 地

域のことを紹介するメッセージを作って発信しよう」

学習過程が示されている。

- ①発表までの計画をたてよう
- ②取材をしよう 取材メモ（事実、考え）
- ③取材メモをグループで
- ④構成表を作ろう
- ⑤次のことに気をつけて書こう（事実をもとに、事実と意見を区別して等）
- ⑥メッセージをすいこうしよう・アドバイスをもらおう
- ⑦メッセージを発信しよう

新しい表現技能については、取り出し指導をしたり、他単元との融合を図ったり、学習過程を示す等の配慮をしている。

IV 予想される現状と課題

小学校学習指導要領国語科改訂のねらい、「書くこと」の領域における教科書単元、これまでの実践と結び付けながら、「書くこと」の領域における現状と課題を予想してみた。そして、(その2)で、現場の現状と課題を分析していく。現場における実践上の課題が明確になり、その対策を講じれば、児童に付けたい表現技能が身につくと考えるからである。

1 相手意識・目的意識をもつまで体験しているか

相手意識があり、伝えたい主題がはっきりするまで体験させるには、多くの時間が必要となる。体験活動している中に、相手意識・目的意識が芽生えるのである。中途半端な活動では、意識の高まりは期待できない。教科書では、委員会活動の報告や地域の紹介文等が素材として取り上げられている。児童が委員会活動、地域の取材活動に一生懸命取り組んでいることが前提となる。

2 全教科において、「書くこと」の活動を取り入れているか

体験活動には、多くの時間が必要であることは前述した。国語科は、全教科の基礎となるものである。特別活動や創造活動の時間、社会科等と関連づけて指導していく必要が生じてくる。資料の読み取り、資料の引用は、社会科の中で十分書かせておくことが可能である。そのための教育過程の編成が必要となる。

3 学習過程を明確にすれば書けるのか

学習過程の明確化が提案されている。確かに、児童が学習の見通しをもつことは大事である。そのため、どの教科書も、文章の表現過程が示されているものが多い。しかし、子どもに付けたい新しい表現技能は、子ども自らの力で見出していくものでなければ、主体的に学習に取り組んだとは言えないであろう。表現過程が分かっても、文章が書けないのが現実ではないだろうか。活動あって学習なしである。児童の実態に応じて、細かい指導が必要であろう。例えば、新聞作りが初めての体験であれば、編集会議、取材、紙面の割り付け等の手順を示す必要がある。必要によっては、取り上げ指導をしなければならないだろう。

4 様々な文種を書かせているか

言語活動例は、様々な文種を書かせることの必要性を謳っていると捉えた。国語の授業だけでなく、様々な機会を捉えて、様々な文種を書かせる必要があるのではないか。

5 繰り返し指導しているか

螺旋的・反復的な繰り返し指導の必要性が謳われている。国語科指導の中で、他教科との関連の中で、易から難へと繰り返し指導していくことの必要性を述べている。そのためには、子どもに付けたい表現技能を、教師が明確にもっておかなくてはならない。そのためのステップも考えなくてはならない。例えば創作文では、起承転結を分からせるために、続き話を書く、四コマ漫画の並び替え、物語文を参考にして、

構成表を参考にして書かせる等の段階がある。

参考文献

6 各領域と密接に関連させているか

「書くこと」の領域において、独立した大単元は少なくなっていた。つまり、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」の領域と関連させて指導していくことの必要性を謳っている。「話すこと」の領域は、同じ表現領域なのでよく分かる。物語文、説明文、意見文等は、書く内容・構成において、融合的に取り扱う単元が多くなっている。

7 教材文（例示文）は、どのように扱っているか

私は、教師自作の教材文にこだわってきた。付けたい表現技能が内包されている教材文、レベルの高い教材文は、児童が表現していく上で模倣の対象となる。しかし、教科書としては、付けたい表現技能そのものを例示している。これで、子どもが主体的に学習に取り組んだといえるのだろうか。教材文（例示文）をどのように扱えばよいのだろうか。

「書くこと」の領域において、授業実践していく上で予想される現状と課題についてまとめてみた。7点述べているが、「何を」「どのように」書かせるかである。つまり、「何を」の素材のもつ意味は大きい。よって、研究テーマを「素材選定の現状と課題」としたのである。そして、（その2）では、学校現場の実態を把握し、「書くこと」の領域における素材選定の現状と課題を明らかにしていく予定である。

- ・ 小学校学習指導要領解説国語編 平成20年
文部科学省 東洋館出版社
- ・ 国語教育指導国語辞典 第四版 平成21年
田近洵一編 教育出版
- ・ 平成23年度使用版 小学生の国語 三省堂
- ・ 平成23年度使用版 国語 光村図書
- ・ 平成23年度使用版 ひろがる言葉 教育出版
- ・ 平成23年度使用版 新しい国語 東京書籍
- ・ 平成23年度使用版 みんなと学ぶ国語 学校図書
- ・ 生きた授業を創る（研究紀要 No. 30） 昭和63年
大分大学教育学部附属小学校 教育実践研究会